

TS（トータル・サティスファクション）を目指して⑳

「素直さ」とは「言われたことをすること」？

校長室担当より

今年度から学校教育目標を変更しました。児童生徒も教職員も同じ目標に向かって進んでまいります。それは、「出逢いに感謝し、自他を大切にしながら、学び続ける人間力を育成する。」です。このキーワードは「感謝」「謙虚」「素直」の3つです。今回は、3つ目の「素直」についてお伝えします。

「素直さ」とは、何でもハイハイと従うことではありません。これは、端的に言えば、何も自分では考えずに他人の意見に乗っかっているだけで、自己の「責任」の部分が完全に抜け落ちていることとなります。例えば、「あの先生から言われたから」と行動し、何かトラブルが起こった時には「自分のせいではない。あの先生のせいだ。」と他人に押し付けてしまう。そうすると自らの成長は停止します。

少し昔の話にはなりますが、このような話（山田ライブラリー「山梨のサッカー」より引用）があります。この話に出てくる選手やコーチの立場で、「素直さ」について考えてみてください。ある中学校のサッカー部のコーチが、試合に負けた選手に罰走として50本のダッシュ走を命じました。その当時は指導者のそのような命令に反論することはあり得ないことでした。選手たちは、不承不承ながら当然のこのように「罰」を受けたのですが、ある選手だけはベンチの脇に立って走ろうとしなかったそうです。コーチが語気を荒げて、「なぜ走らないんだ！」と言うと、その選手は「走る理由がわからない。自分たちだけが走らなければならないのは納得できない。コーチも一緒に走ってくれ。だったら自分も走る。」と答えたそうです。

本当の「素直さ」とは、「相手の存在を認め、心を開くこと」であり、そこには一時的な感情や損得勘定に囚われることのない、正しい思いに基づいた行動力を伴っていることが必要です。素直な人は、他者の意見という情報を、主観を交えないでまずは自分の頭に入れて、それを自分の中にある情報とともに判断し、自ら責任ある正しい行動を選択していきます。この選手（後に世界で活躍する中田英寿さんです）は、コーチ

の意見を感情的に否定するのではなく、意図を冷静に判断し、自分の思いを素直に伝え、自分なりに責任ある正しい行動をとったのです。この意味で「素直」な人であると言えます。またこのコーチも、中田選手のこの言葉を素直に受け止めて、実際に選手とともに罰走をされたそうです。すると、全力で走るには20本が限界であったことを知ります。そして、自分の指導者としての理念や考え方、知識やスキルの無さを痛感し、後にドイツへ3年間指導者留学されたそうです。このコーチの方も、選手から学ぶ力を有し、自己の成長に対して非常に「素直」な人であったという証拠ですね。

「素直さ」は非常に大切に、これを私も含め皆さんに持ち続けてほしいと思いますが、人間として時には感情的になってしまったり、損得勘定に走ってしまったり、弱気になったりすることもあると思います。そんな時に、周囲の方々がさりげなく支えてあげられて、子どもたちがその姿を見て育つ。そんないい学校を創りましょう、一緒に。(令和4年5月24日)

本校教職員として目指す方向性（確認）

※令和3年4月1日にお願ひしたこと

- 1 トータル・サティスファクションの実現
- 2 学びに向かう力をもつモデルを率先垂範
- 3 対話とパートナーシップに基づく行動
- 4 全教職員で全校の児童生徒を見守るチームの実現
- 5 「今さえ、ここさえ、自分さえよければいい」の考えを戒める